



「生きる力」を育むフリースクールの様子

若者らの「駆け込み寺」に 下神谷で農業中心 フリースクールが開所

国内で不登校の児童生徒数が三十万人を超える中、若者の「居場所づくり」や「生きづらさの解消」は社会課題。そうした中、いわき市内では先ごろ、農業活動を中心としたフリースクールが立ち上がった。

設立されたのは、平下神谷字赤沼の非営利型一般社団法人「TERAKOYA GAMP（てらこや・がんぷ）」（新妻唯昭理事長）。不登校かどうかを問わず、「生きる力を育むサポート」を目標に掲げている。GAMPは、「Go At My Pace」



の頭文字で、「マイペースでこう」の意味。新妻理事長が代表を務める「がんぷ村社」の理念で、同社は教育サポート、世界各国から人が集まるゲストハウス、食事処、農園、工務店を展開。

フリースクールの教育は、それらが併設された「村」が舞台。各種事業のメリットを生かし、外国からの受け入れも含めた「インターナショナルフリースクール」「農業体験中心の活動」を柱に据える。目指すイメー

長とともに農作業に取り組み、「生きる力」にも言い換えられる「働く力」を身につけていく。例えばヤギの餌やり、草刈り、種まき、散歩などが候補で、取り組みは自分で決める、「自己決定できる居場所」でもある。七月下旬から活動を始め、夏休み期間中は一日に十人弱が利用。利用時間は主に、午前九時から午後三時まで。当面は月火木曜が定休。

市内で寄贈を受けたのは、女子小中学生のバレーボールクラブ「Sun Shine I V B C」。小名浜三小で贈呈式が開かれ、プロジェクトに協力したヤマキ寝具の八巻諒祐営業戦略室長からマットレス十三本が手渡された。

同マットレスは、特殊立体波形の構造で、体圧分散と寝姿勢保持の機能が高いことが特徴。プロジェクトに合わせ、大谷選手は「いっぱい寝て、一緒に大きな夢を見てもらいたい」とメッセージを寄せている。

オフィス創光が 11月15日セミナー

「自転車環境」

オフィス創光（岩城光英代表）主催による「親子をとりまく自転車環境」と題した公開セミナーは十一月十五日午前、平のラトブ六階企画展示室で行われる。

講師は、自転車の安全利用促進委員会メンバーで自転車ジャーナリストの遠藤まさ子さん。講演内容は、いわき市内での自転車の利用状況、自転車で楽しめる道や市の観光への取り組みなどについて語る。

参加費無料で、先着百五十人を予定。講演時間は午前九時四十分から。希望者は同十日までFAX（〇二四六―二七一六六三五）で申し込むこと。

大谷選手も愛用の マットレスを寄贈

ヤマキ寝具、バレークに

アメリカ大リーグ、ドジャースで「二刀流」を武器に活躍を続ける大谷翔平選手（三二）。その日々を文字通り支えるマットレスが先ごろ、いわき市内のバレーボールクラブに届けられた。

大谷選手と寝具メーカーの西川が共同で取り組む「大きな夢を見よう！プロジェクト2025」の一環。睡眠の大切さを伝えようと、大谷選手が愛用するマットレスシリーズ「エ



贈呈式でマットレスを受け取った選手ら

アー」約二千五百本を全国の小学、大学生の団体などに贈っている。